# 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和４年１２月２８日現在）

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■指導・青年農業士　新規就農者激励会を開催

12 月６日、ひだホテルプラザにおいて指導農業士会、青年農業士会及び農林事務所の主催による「新規就農者激励会」が開催された。

当日は、飛騨地区の今年度１年目となる新規就農者 21 名のうち 13 名に加え、来賓としてＪＡひだ谷口代表理事組合長のほか女性農業経営アドバイザー吉野会長や高山市、飛騨市、岐阜県農畜産公社など関係者計 45 名が参加した。

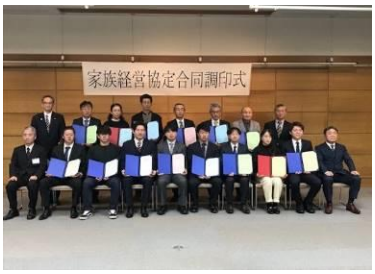
【新規就農者に対し
農業士からアドバイス】

はじめに、来賓ならびに主催者から新規就農者への期待が述べられたのち、就農１年目の新規就農者からの営農開始後の技術や経営の課題、悩みなどに対し指導・青年農業士や関係機関からアドバイスなど、今後の経営安定と発展に向けた活発な意見交換が行われた。

今後も農業普及課では、新規就農者の速やかな営農定着に向けて、指導・青年農業士や関係指導機関と連携して支援に取り組む。

### ■新規就農者　家族経営協定調印式を開催

12 月 22 日に飛騨市、23 日には高山市の市庁舎にて家族経営協定調印式が行われ、農業委員会、市、農林事務所の立会のもと、計９戸（飛騨市２、高山市７）の農家が家族経営協定書に調印、締結をした。９戸の品目別内訳は、水稲１戸、トマト４戸、ほうれんそう３戸、肉用牛１戸である。




【参加者全員で記念写真】

いずれの締結農家も、後継者の就農を契機に家族内で経営や生活の目標と、そのための役割分担や就業条件などを話し合い、今後の持続可能な農業経営を目指すために作成して協定書とした。

調印式では、参加した後継者から「身を引き締めて農業経営に取り組みたい」「家族で力をあわせて経営発展、地域発展を目指したい」などの決意表明があった。

農業普及課では、家族経営協定を踏まえて各農家の経営の安定・継続に向けた支援に取り組む。

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■水稲　ぎふ清流ＧＡＰの取り組みを支援

農業普及課では、飛騨蔬菜出荷組合の自主点検ＧＡＰである「ひだＧＡＰ」に加え、「ぎふ清流ＧＡＰ評価制度」を活用した第三者認証ＧＡＰの取り組みを広く生産者へ勧めており、飛騨地域ではこれまでに16経営体が「ぎふ清流ＧＡＰ」の農場評価を受けている。

【ＧＡＰ評価員による
農場評価】

今回、高山市の水稲生産者が新たに農場評価を受けることとなり、普及指導員が農場評価員として事前に生産者の自己点検方法や書類の整理・保管などについてアドバイスし、「ぎ

ふ清流ＧＡＰ推進センター」の審査がスムーズに実施されるよう農業普及課として支援を行った。

今後、農業普及課ではＧＡＰの取り組みが一過性とならないように、評価結果を活用した生産現場の更なる改善についても助言を実施するとともに、「ひだＧＡＰ」も含め生産者へのＧＡＰ理解の醸成を図りながら取り組みを支援する。

**■飛騨ほうれんそう　各地域のほうれんそう部会反省会を開催**

12 月に入り、高山、丹生川、吉城、高原、清見・荘川、高山南の各地域でほうれんそう部会反省会が開催された。

飛騨ほうれんそうにとって、本年度は残雪の影響により作付けが遅れ、お盆以降は高温と降雨による品質の悪化など厳しい年であった。

そのため、各地域で反省会を開催し生産・販売状況や部会活動などを振り返り、来年度に向けた検討が熱心に行われた。

【各地域で今年の栽培結果を振り返る】

農業普及課からは、飛騨全体の勉強会での栽培研修と合わせて、近年、高齢化の進むなか農作業中の事故が多いことから、各部会に対しては農作業安全についての研修を行った。

今後、農業普及課では全体勉強会や個別面談などを通して、安全かつ安定的な飛騨ほうれんそう生産に向けた産地への支援を行う。

**■飛騨トマト　飛騨蔬菜出荷組合トマト部会が全体栽培研修会を開催**

12月１日、飛騨蔬菜出荷組合トマト部会員が集い、生産・販売状況を振り返り、次年度への方針を決定する全体栽培研修会がＪＡひだ農業管理センターで開催された。

はじめに部会執行部から、組合結成はじめての販売額47億円達成の報告ののち、さらなる拡大に向け市場の評価が高い棚持ちに対し今後の品質維持のため品種の絞り込みや、産地としての長期安定出荷に対する取り組みなど部会方針が示され、決定された。

【次年度に向け栽培研修会を開催】

農業普及課からは、長期安定出荷を実現するための栽培管理として、今年度、データ駆動型農業実証事業を通じて得られた施設内温湿度データをもとに９月以降の収量確保に向けた灰色かび病対策と果実汚れ発生対策の情報提供を行った。

農業普及課では、ＪＡとともに１月以降順次、生産者への個別面談を実施し、部会方針の実現に向けて支援を行う。

**■果樹　第 25 回りんご「ふじ」品評会が開催**

12月９日、ＪＡひだ果実出荷組合協議会が第25回りんご「ふじ」品評会を開催した。

当品評会は、飛騨りんごのＰＲと協議会員の技術研鑽を狙いとして毎年開催されている。今年は、春期の凍霜害がほとんど発生せず、りんご栽培においては近年になく恵まれた年であり、品評会には飛騨地域各地の生産者から21点の出品があった。

【外観、果実品質とも優れたりんごが並ぶ】

飛騨農林事務所や全農岐阜、市場関係者など11名が審査員を務め、色づきや玉揃い、糖度、酸度等の審査項目に基づき厳正に審査した結果、金賞から銅賞まで計８点を選出した。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、栽培技術情報の提供や気象データの収集、病害虫防除暦の作成等を実施し、管内果樹生産者を支援していく。